

# 美学・西洋美術史

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
美学特論Ⅰ	カワイイの構造	2	MARINUCCI LORENZO	後期 水曜2限
美学・西洋美術史特論Ⅰ	笑えるルネサンス美術	2	足達 薫	前期 月曜4限
美学・西洋美術史特論Ⅱ	美術とスペクタクル 古代ローマを例に	2	氷見野 夏子	後期 月曜5限
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋古代美術研究	2	氷見野 夏子	前期 火曜2限
美学・西洋美術史研究演習Ⅰ	西洋美術研究(基本編)	2	足達 薫	前期 金曜3限
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋古代美術研究	2	氷見野 夏子	後期 火曜2限
美学・西洋美術史研究演習Ⅱ	西洋美術研究(発展編)	2	足達 薫	後期 金曜3限
美学研究演習Ⅰ	美学研究演習Ⅰ	2	MARINUCCI LORENZO	前期 木曜5限

**科目名：美学特論 I**

曜日・講時：水曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZO

コード：LM23207, 科目ナンバリング：LIH-ART608J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：カワイイの構造**

**2・授業の目的と概要：**本講座では「可愛い」と「カワイイ」を美的カテゴリーとして論じ、現象学・心理学・美術史の視点から、美との問題的な関係性、西洋美術における「可愛らしさ」の位置づけ、そして現代における異文化間での関連性について考察する。

**3. 学習の到達目標：**学生たちは、可愛らしさが芸術的・思想的構築物として持つ本質を深く理解し、ヨーロッパと日本におけるその歴史の変遷を学び、現代における世界的な魅力のパターンを認識できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1) カワイイと cute の美学
- 2) 西洋と東洋におけるカワイイ
- 3) 現象学的なアプローチ：ノエシスとノエマ
- 4) ノエマ的なカワイイ：甘・華・軟・丸・小
- 5) 甘えと美：味覚の美学
- 6) 色彩の美：ヒューレの概念
- 7) 触覚の美学
- 8) ノエシスのカワイイ：幼稚意識を求めて
- 9) 「戯れ」としてのかわいい
- 10) 無罪となつかしさ
- 11) イメージ学とカワイイ：非模倣的な絵の状況
- 12) 技術複製時代とカワイイ：東西のアニメや漫画
- 13) カワイイ・アートの現在景色
- 14) 結論

**5. 成績評価方法：**授業中の積極的な参加、レポート

**6. 教科書および参考書：**『「かわいい」論』、四方田 犬彦（2009）  
Simon May 「かわいい」の世界：ザ・パワー・オブ・キュート（2019）

**7. 授業時間外学習：**新聞や書籍を通して、授業内容に関する情報や話題を収集すること。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：美学・西洋美術史特論 I**

曜日・講時：月曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM11406, 科目ナンバリング：LIH-ART609J, 使用言語：日本語

**1. 授業題目：笑えるルネサンス美術**

**2・授業の目的と概要：**美術という日本語に含まれた「美」という言葉は、しばしば、絵画や彫刻が美がかりでなく、もっと多様な感覚を生み出すという事実を忘れさせてしまいます。しかし、古代から現代まで、絵画や彫刻は笑いをも生み出してきました。この授業では、イタリア・ルネサンス美術を素材にして、視覚的ユーモアがいかにして生起していったかを具体的な作品を通じて理解します。

**3. 学習の到達目標：**美術作品を歴史的文脈に位置づけて分析する視点と方法を理解する。15～16 世紀イタリアの興味深い美術作品についての知識を身につける。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1：プロローグ——イメージで笑わせるためのいくつかの例
- 2：ルネサンス文化における笑い
- 3：笑わせるためのいくつかの方法——アリストテレス『詩学』を起点として
- 4：エロス (1)
- 5：エロス (2)
- 6：パロディ (1)
- 7：パロディ (2)
- 8：逆転 (1)
- 9：逆転 (2)
- 10：連想 (1)
- 11：連想 (2)
- 12：皮肉 (1)
- 13：皮肉 (2)
- 14：誇張 (1)
- 15：誇張 (2)

(註1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)

(註2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください)

**5. 成績評価方法：**毎回の授業でのコメントアンケート (方式は考え中。授業で示します) および全体を通じたまとめミニレポートを総合して評価します。

**6. 教科書および参考書：**授業で指示します。

**7. 授業時間外学習：**配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness 該当しない。

**9. その他：**

**科目名：美学・西洋美術史特論Ⅱ**

**曜日・講時：**月曜 5限

**開講学期：**後期 **単位数：**2

**担当教員：**氷見野 夏子

**コード：**LM21505, **科目ナンバリング：**LIH-ART610J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**美術とスペクタクル 古代ローマを例に

**2・授業の目的と概要：**古代ローマ世界では、剣闘士競技や野獣狩り、戦車競走、またギリシア世界由来の演劇や音楽など、多種多様なスペクタクル（見世物）が人々の目を楽しませた。そうしたスペクタクルの世界は壁画やモザイク、彫刻、浮彫に表されたほか、スペクタクルを開催する空間そのものも、美術で荘厳された。授業では、古代ローマにおける美術とスペクタクルとの関係を、多様な作例を紹介しながら見ていきたい。

**3. 学習の到達目標：**古代ローマにおけるスペクタクルと美術の関係を、具体的な作品を通して学ぶ。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. イントロダクション：ローマのスペクタクル
2. ヘレニズム世界とローマ
3. 壁画とスペクタクル
4. モザイク画とスペクタクル
5. 彫刻とスペクタクル（1）
6. 彫刻とスペクタクル（2）
7. 遍在する仮面
8. 凱旋とスペクタクル
9. 劇場・円形競技場と美術
10. キルクス（戦車競走場）と美術
11. スペクタクルと庭園（1）
12. スペクタクルと庭園（2）
13. 水とスペクタクル
14. スペクタクルと色大理石
15. エピローグ：スペクタクル、表象、荘厳

**5. 成績評価方法：**出席と学期末のレポート課題に基づいて評価する。

**6. 教科書および参考書：**授業中に適宜指示する。

**7. 授業時間外学習：**学期末のレポート作成

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：美学・西洋美術史研究演習 I**

**曜日・講時：**火曜 2 限

**開講学期：**前期 **単位数：**2

**担当教員：**氷見野 夏子

**コード：**LM12207, **科目ナンバリング：**LIH-ART612J, **使用言語：**日本語および英語

**1. 授業題目：**西洋古代美術研究

**2・授業の目的と概要：**古代ギリシア・ローマ美術およびその後世における受容を扱った英語の文献を読み、基本事項を確認しながら、研究におけるアプローチの実例を学ぶ。参加者は登場する作品や用語について調べたうえで、読解文献のアプローチに対する自らの意見を述べつつ、発表と議論を行う。

**3. 学習の到達目標：**古代ギリシア・ローマ美術に関する基礎知識を学ぶとともに、研究におけるアプローチの仕方や、発表の方法を習得する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション：授業の概要説明、発表分担の決定
2. 読解文献の背景知識と発表の形式について説明
3. 発表と議論
4. 発表と議論
5. 発表と議論
6. 発表と議論
7. 発表と議論
8. 発表と議論
9. 発表と議論
10. 発表と議論
11. 発表と議論
12. 発表と議論
13. 発表と議論
14. 発表と議論
15. 発表と議論

**5. 成績評価方法：**出席、発表内容、および授業中の発言をもとに評価します。

**6. 教科書および参考書：**読解する文献は、初回もしくは第 2 回に配布します。

**7. 授業時間外学習：**発表者は割り当てられた箇所の英文を全訳し、登場する作品や用語について調べ、発表のための資料を準備する。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：美学・西洋美術史研究演習 I**

**曜日・講時：**金曜 3 限

**開講学期：**前期 **単位数：**2

**担当教員：**足達 薫

**コード：**LM15308, **科目ナンバリング：**LIH-ART612J, **使用言語：**日本語および英語、その他の西洋言語

**1. 授業題目：**西洋美術研究（基本編）

**2・授業の目的と概要：**中世末期から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。

**3. 学習の到達目標：**西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1: ガイダンス(1)研究の目的とこれからの予定
- 2: ガイダンス(2)「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか
- 3: 発表と議論
- 4: 発表と議論
- 5: 発表と議論
- 6: 発表と議論
- 7: 発表と議論
- 8: 発表と議論
- 9: 発表と議論
- 10: 発表と議論
- 11: 発表と議論
- 12: 発表と議論
- 13: 発表と議論
- 14: 発表と議論
- 15: 発表と議論

(注：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります)

**5. 成績評価方法：**発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。

**6. 教科書および参考書：**読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。

**7. 授業時間外学習：**発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness  
該当する。

**9. その他：**

美学・西洋美術史専修の3年生は「美学・西洋美術史演習」（前期、後期連続）可能な限り、複数の演習を履修してください。

加えて、各演習は、卒業論文の指導もかねているので、4年次には、自分の卒論テーマに合わせた演習の履修を強く推奨します

(4年次にいずれかの演習を履修せずに卒論を書くのはきわめて困難かつ無謀であり、奨めません)。

西洋美術史の場合、古代～中世の美術は氷見野准教授、それ以降の近世～現代は足達、美学はマリヌッチ准教授です。

**科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ**

**曜日・講時：**火曜 2 限

**開講学期：**後期 **単位数：**2

**担当教員：**氷見野 夏子

**コード：**LM22207, **科目ナンバリング：**LIH-ART613J, **使用言語：**日本語および英語

**1. 授業題目：**西洋古代美術研究

**2・授業の目的と概要：**古代ギリシア・ローマ美術およびその後世における受容を扱った英語の文献を読み、基本事項を確認しながら、研究におけるアプローチの実例を学ぶ。参加者は登場する作品や用語について調べたうえで、読解文献のアプローチに対する自らの意見を述べつつ、発表と議論を行う。

**3. 学習の到達目標：**古代ギリシア・ローマ美術に関する基礎知識を学ぶとともに、研究におけるアプローチの仕方や、発表の方法を習得する。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

1. オリエンテーション：授業の概要説明、発表分担の決定
2. 読解文献の背景知識と発表の形式について説明
3. 発表と議論
4. 発表と議論
5. 発表と議論
6. 発表と議論
7. 発表と議論
8. 発表と議論
9. 発表と議論
10. 発表と議論
11. 発表と議論
12. 発表と議論
13. 発表と議論
14. 発表と議論
15. 発表と議論

**5. 成績評価方法：**出席、発表内容、および授業中の発言をもとに評価します。

**6. 教科書および参考書：**読解する文献は、初回もしくは第2回に配布します。

**7. 授業時間外学習：**発表者は割り当てられた箇所の英文を全訳し、登場する作品や用語について調べ、発表のための資料を準備する。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**

**科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ**

**曜日・講時：**金曜 3 限

**開講学期：**後期 **単位数：**2

**担当教員：**足達 薫

**コード：**LM25308, **科目ナンバリング：**LIH-ART613J, **使用言語：**日本語および英語、その他の西洋言語

**1. 授業題目：**西洋美術研究（発展編）

**2・授業の目的と概要：**中世末期から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。

**3. 学習の到達目標：**西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1: ガイダンス (1) 研究の目的とこれからの予定
- 2: ガイダンス (2) 「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか
- 3: 発表と議論
- 4: 発表と議論
- 5: 発表と議論
- 6: 発表と議論
- 7: 発表と議論
- 8: 発表と議論
- 9: 発表と議論
- 10: 発表と議論
- 11: 発表と議論
- 12: 発表と議論
- 13: 発表と議論
- 14: 発表と議論
- 15: 発表と議論

(注：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります)

**5. 成績評価方法：**発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。

**6. 教科書および参考書：**読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。

**7. 授業時間外学習：**発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness  
該当する。

**9. その他：**

美学・西洋美術史専修の3年生は「美学・西洋美術史演習」（前期、後期連続）可能な限り、複数の演習を履修してください。

加えて、各演習は、卒業論文の指導もかねているので、4年次には、自分の卒論テーマに合わせた演習の履修を強く推奨します

(4年次にいずれかの演習を履修せずに卒論を書くのはきわめて困難かつ無謀であり、奨めません)。

西洋美術史の場合、古代～中世の美術は氷見野准教授、それ以降の近世～現代は足達、美学はマリヌッチ准教授です。

**科目名：美学研究演習 I**

**曜日・講時：**木曜 5 限

**開講学期：**前期 **単位数：**2

**担当教員：**MARINUCCI LORENZO

**コード：**LM14502, **科目ナンバリング：**LIH-ART614J, **使用言語：**日本語

**1. 授業題目：**本講義では、美学の基本的問題と、西洋文化の諸時代における美と芸術に関する主要な哲学的観念を扱う。異文化間の考察を行う機会も設けられる。

**2. 授業の目的と概要：**学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における哲学理論の基本的な理解を得るとともに、各時代における芸術的表現と理論的考察の相互影響について議論し理解できるようになる。

**3. 学習の到達目標：**学生は、ヨーロッパ文化の異なる時代における芸術と美に関する哲学的思考の主要な特徴について十分な知識を持ち、芸術的表現と理論的考察の相互影響を分析し議論できるようになる。

**4. 授業の内容・方法と進度予定：**

- 1) 美学とはなんですか。美、術、道など
- 2) 美の根本的な逆説：自然・技術、超越・憧れ、普遍・特殊
- 3) 西洋思想の始まり：プラトンまで
- 4) プラトンの美論：形相やエロス
- 5) プラトンの芸術批判：詩人の追放
- 6) アリストテレスの詩学
- 7) アリストテレスの詩学 2
- 8) 中世の美学：アウグスティヌス
- 9) 中世の美学：トマス
- 10) 美学の時代：近代の問題
- 11) 合理主義と経験主義
- 12) 「崇高」と「ピクチャレスク」
- 13) カントの「判断力批判」
- 14) 期末試験

**5. 成績評価方法：**期末試験

**6. 教科書および参考書：**資料はスライドで提供される

参考書：西洋美学史 | 小田部 胤久 | 2009

**7. 授業時間外学習：**講義における予習事項として、内容に関連する身近な情報や文献などにできるだけ接して予備知識を持つておくことが大切である。

**8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness**

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

**9. その他：**